

Q 母子保健事業の不妊治療費補助金ですが、1件あたりの補助額は。また、茨城県から出ている補助金の額は。

A 町では、まず茨城県の不妊治療費助成事業に申請をしていただき、県から交付を受けた方を対象としています。1回の治療に要した費用のうち、県から受けた助成金を差し引いて、5万円を限度に助成しています。県では、初回の方には1回30万円、2回目以降は、20万円が治療にもよりますが、限度額となっています。



Q 農業の担い手や後継者育成のための農業塾を体験された方で、道の駅に出荷している人はどのくらいいるのか。また、どの程度出荷しているのか。

A 農業塾は平成26年度から実施していますが、道

の駅に出荷している人は10名です。全ての方がたくさん出荷しているわけではなく、今現在は野菜のみを道の駅だけに出荷している状況です。



Q 道の駅「ごか」後背地活用基本構想作成業務委託において、どういう基本構想を策定したのか。

A 基本構想の中身は、再整備の考え方の検討ということで、再整備に向けた課題を整理したり、五霞町のニーズの把握や整理を行いながら、基本構想の方向性としてまとめたものです。

Q 情報教育の推進を図るため、児童生徒一人1台のタブレット端末が整備されたが、どのように活用しているのか。

A タブレット端末で専用アプリを開いて、教師が配信した課題等に対して児童・生徒が返信をする取組

や、端末を持って外で写真を撮ったりしています。



Q 五霞町立小学校統合及び小中一貫教育を目指す中で、今後、子供たちの食育の面からも自校給食が有効だと考えるが、町としての考えは。

A 五霞町立学校あり方検討会の中でも自校給食を求める声があり、施設の基本構想と合わせて検討も進めてきました。児童・生徒数の減少を考えますと、自校給食をすべきかどうか早急に決定することが難しいところです。自校給食以外にも民間委託、広域での実施、福祉関係との連携なども含め、引き続き検討していきたいと考えています。

